

税で子供にできること

学校法人千葉武陽学園 西武台千葉高等学校 2年
戸邊 悠希

週末、私は必ず図書館に行く決めてしています。幼い頃から通い続けたあの場所の静けさや本特有のにおい、不思議な雰囲気は私を落ちつかせます。私が必ず立ち寄るのは新書のコーナー。図書館員さんが描いているポップを見るとどうしても全て借りたくなくなってしまいます。悩んだ末に決めた本は帰ったらすぐ開き、時間を忘れて読むというのが私のルーティンです。他にも、雑誌やビデオなどを借りるために利用する図書館は、何回行ったか数えられません。

以前、図書館で嬉しい出来事がありました。ある年の夏休みに小学校低学年くらいの男の子が十冊程の児童書を両手に抱えて、

「お母さん、全部借りたい！」

と目を輝かせていました。最近、スマートフォンなどの電子機器が普及しているため、子供の読書量が減少しているというニュースを聞くようになりました。しかしそんな中でも私と同じ様に本を愛してくれている子がいたことに感動しました。

たくさんの本や雑誌、新聞やビデオを購入する資金は私たちの税金で賄われています。現在は何を買うにしても十パーセントの消費税がかかります。私は納めていませんが、両親は所得税、自動車税、固定資産税など、数えきれない程の税金を納めています。なぜ税金を納めるのかという理由には、公共施設や道路の整備、医療の発展などの目的があると思います。しかし私は、税金は子供の未来をより良いものにするためのものだと考えます。本は私の生活の至る所で役に立っています。例えば、文章を書く時や目上の方と話す時など、正しい日本語の使い方は本から学びました。また、本を読んで得た知識によって物知りにもなりました。子供たちの成長に欠かせない本。本を購入し、全ての子供に共有するためには、やはり私たちの「税」の力が必要です。

こう考えてみると、図書館の本は大人の方が納めている税金のおかげで読めていたのだなど実感しました。税金はただ取られているだけだと思っていましたが、税金のおかげで大好きな本を読めていたのだと思うと、税金を納めてくれている全ての方に感謝しなければならないと思います。また、私も来年は成人です。十八歳になれば様々な義務が増え、もちろん多くの税を納めることもしなければならなくなります。今度は私が大人の立場になって、子供に多くの本を、そしてより良い未来を提供していきたいです。私が税金を納めることで、多くの子供が本を好きになり、図書館に通うようになることが私の目標です。